

# 茨城県立守谷高等学校 (学校長 飯村 省一)

実施日	平成20年1月16日(水)	時間	午後2時25分～午後3時15分
実施場所	体育館・多目的ホール	対象/人数	1年生 207名
担当教諭	折原 史康	ファシリテーター	-
講師	塚本 順也(青年海外協力隊 OB) 増田 裕章(青年海外協力隊 OB)		

## 活動内容

・塚本さんはパプアニューギニアの位置や人口、公用言語、国旗や現地のお金を見せたり、またご自身が体験してきたことについて映像を使いながら講話。

・フィジーに青年海外協力隊養護隊員として派遣された増田裕章さんの話。現地の言葉で挨拶をし、その後パワーポイントを使って現地の様子やご自身の活動の様子などを説明。

## 生徒の感想

・今日の講話を聞いて、私は、いろいろな人が外国へとボランティアに行き、日本では得ることのできないものを経験したり、学んだりしているんだなあと思いました。名前も知らなかった人と何か1つの物を造ったり、通りすがりの人と自然に挨拶を交わしたりと、日本では考えられないような、ちょっとした優しさなどがあっていいなあと思いました。

・私は、増田さんの話を聞いて、国によっていろいろなことが違うなあと思いました。それは、着る物や食事、そして育つ環境です。フィジーの子供たちは川などで元気に遊んでいることがいいなあと思いました。また、フィジーでは他人でも自然に互いが話しかけたりすることがすごくいいことだなと思いました。日本もフィジーみたいな環境になればいいなあと思いました。

・パプアニューギニアの講話では、実際に国旗やお金を見せてもらい、触ることができてよかった。フィジーの講話では、フィジーのBGMをかけてもらい楽しかった。バスには窓がないのと、洗濯物を雨の時にたまないなんてびっくりした。2つの国について学ぶことができてよかった。

## 先生の感想

・20分という短い時間で講演をしていただいたことを申し訳なく思っています。講話を聞いた先生方は大変興味を持たれ、質問したいことがたくさんあったようです。残念なことは、日本との大きな違いについて、クイズ形式で生徒たちに問いかけていただけたらもっと生徒たちも活発になり質問もたくさん出たのではと思います。多少講義

調になってしまわれ、居眠りをしていた生徒も結構見られたのが残念です。本校では今回が初めての企画なので、内容面についても進行の仕方についてもいろいろと勉強になることがありました。次回同じように国際理解教育をする際には、教室ごとにやってみようかなとか、外国人(日本語の話せる外国人)にもお願いしてみようかなと思っています。

## 成果と課題

・内容面について多少の不満は正直ありますが、初めての企画なので今後さらに工夫をしたり、講師の方と綿密な打ち合わせをしていきたいと思えます。そんな中でも生徒全員に感想を書かせた結果、それなりに印象に残った話や映像があったようです。特に、塚本先生の講話の中では、貝殻のようなお金を実際手にして見せていただいたことや、増田先生の講話の中では、現地での人々の生活の様子はかなり印象に残っているようです。また、この講話を通して、海外ボランティア活動にも興味を持った生徒や、自分の国、日本を新たな目で見えるようになった生徒もいました。必ずしも全員の生徒たちが講師の方々の話を興味を持って聞いていたとは言えませんが、何人かの生徒にとっては海外に目を向ける良いきっかけになったように思われます。今後の課題としては、クラス単位で行うなどしてできるだけ少人数グループで実施できたらと思っています。また、外国人講師を複数招くことでさらに興味・関心を高めることができるのではないかと思います。

